



山梨の大観

「山梨の大観」を活かした美しい県土づくり

平成 26 年 12 月
山 梨 県



目次

はじめに	1
1. 「山梨の大観」の基盤となる地形と河川の特徴	3
2. 「山梨の大観」の典型例	4
3. 「山梨の大観」を捉える意義	10
4. 「山梨の大観」を活かした美しい県土づくりのあり方	12
(1) 「山梨の大観」を望む視点場の設定の考え方	12
(2) 「山梨の大観」の保全、活用の考え方	14
(3) 「山梨の大観」を望む空間(「身体座」)の設え方 .	16
(4) 「山梨の大観」への眺望を活かした 広域的に取り組む地域振興方策例.....	18
参考資料 典型的な「大観」を望む視点場に関する情報	20
■ 用語解説	38

はじめに

県民のみなさんは山梨県の「^{けいかん}景観」※1として、どのような像を心に描きますか？

〔写真1〕のような日常の生活での身近な一場面の景観と、〔写真2〕のような山梨県の地形が形成する広範囲にわたる景観の両方を思い浮かべるのではないのでしょうか。



〔写真1〕

日常の生活での身近な一場面の景観。（甲州市）沿道の建物のデザイン等を認識できます。



〔写真2〕

甲府盆地を囲む丘陵から、眼下に甲府盆地、その奥に南アルプス（左側からのびる稜線）、ハケ岳（中央よりやや右）を望む景観。山梨県の県土の構造を一目で捉えることができます。（笛吹市 福光園寺周辺より）

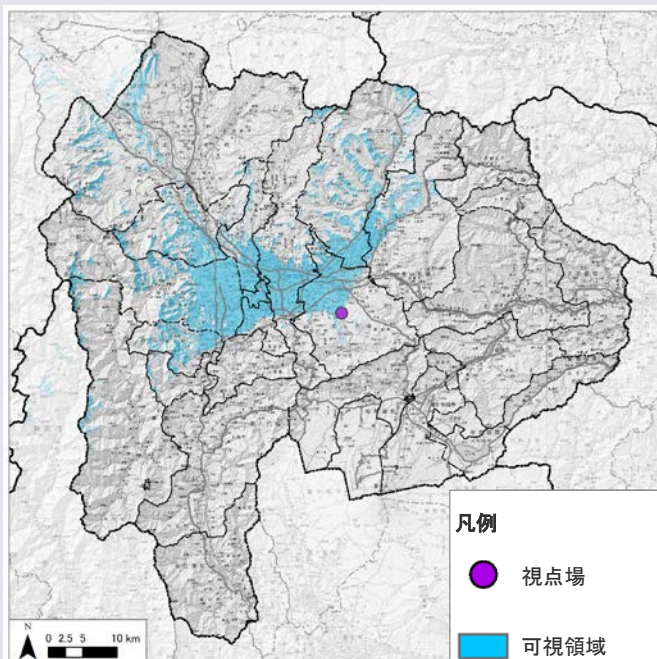


図 写真2の視点場からの可視領域

笛吹市福光園寺周辺から眺めることができる範囲（可視領域）*を水色で表現しています。甲府盆地を挟み、遠くハケ岳、南アルプス連山を望めることが伺えます。

*可視領域：国土数値情報のメッシュデータを用いて、視点場から見ることが可能なメッシュの解析結果を示したものであり、地形の上に存在している建築物や工作物、樹木等は解析上考慮していません。そのため、実際には建築物等や樹木で遮られるため見えない範囲も水色で着色されている場合があります。

山梨の大観

本書では〔写真2〕のような景観を^{たいかん}「山梨の大観」と称します。

「山梨の大観」は、山梨の県土の広範囲を一望のもとに捉えることができるなど、県土の特性を示し、一目見て山梨県であることが分る景観です。

「山梨の大観」は、山梨の地形、河川の特徴の上に成立するものであり、私たち県民の生活、産業など、日々の営みの基盤をなしています。

つまり、「山梨の大観」は、私たち県民にとってかけがえのないものであり、本書は、「山梨の大観」に合う住み方、まち・むらづくりのあり方を検討する際に参考となる資料です。

本文において、「※No」が右肩に付いている語句は、本資料の巻末に用語解説をまとめています。

本書のねらい

本書は、以下の2点を主な目的として作成しました。


県民のみなさんに


- ◆ 「山梨の大観」を知っていただく
- ◆ 「山梨の大観」を捉えることの意義を理解いただく


併せて、「山梨の大観」を活かした美しい県土づくりのあり方の解説を掲載しています。


本書の構成

本資料の構成は以下のとおりです。

1. 「山梨の大観」の基盤となる
地形と河川の特徴 

「山梨の大観」は、山梨の地形が形成する空間がその基盤となっています。
そのため、まず、山梨県の地形の特徴を解説します。
2. 「山梨の大観」の典型例 

典型的な「山梨の大観」を紹介し、その写真とともに景観の特徴を掲載しています。
3. 「山梨の大観」を捉える意義 

「山梨の大観」を意識し、まちづくりや事業活動に取り込む意義を解説しています。
4. 「山梨の大観」を活かした
美しい県土づくりのあり方 

はじめに「山梨の大観」を望むことができる「視点場」の設定の考え方を解説しています。そしてそのような「視点場」からの「山梨の大観」の保全、活用の考え方を示し、最後に、地域の歴史・文化・産業等を踏まえ地域振興に資する視点場の設え方を解説しています。

1. 「山梨の大観」の基盤となる地形と河川の特徴

「山梨の大観」は、山梨の地形が形成する空間がその基盤となっています。まず、山梨県の地形の特徴を解説します。

■甲府盆地を山地が囲み、その背後に県境の山々が聳える

山梨県中央には、高い山々に囲まれる甲府盆地が広がります。甲府盆地の南には富士山、西には南アルプス連山、北には八ヶ岳や茅ヶ岳、東には秩父山地などが聳え、甲府盆地内からそれらの山々を望むことができます。

■八ヶ岳や富士山の広大な山麓地が広がる

富士山や八ヶ岳、茅ヶ岳の裾野には広大な山麓地が展開します。

■河川により回廊状の谷地形が形成されている

このような山梨の県土を、北から釜無川、北東から笛吹川が流れ、合流後富士川となり駿河湾に至ります。釜無川による回廊状の谷地形が、八ヶ岳山麓から甲府盆地越しに富士山への大観をもたらしています。桂川沿川からの富士山への大観、富士川沿川からの八ヶ岳への大観も同様の地形の特徴から得られる景観です。

■県東部、北部、西部の県境周辺に急峻な山地が展開する

一方、県東部、北部、西部では、急峻な地形の山地・渓谷が連なり、深い渓谷が形成され、県東部の山地は、関東平野を流れる河川の水源地になっています。

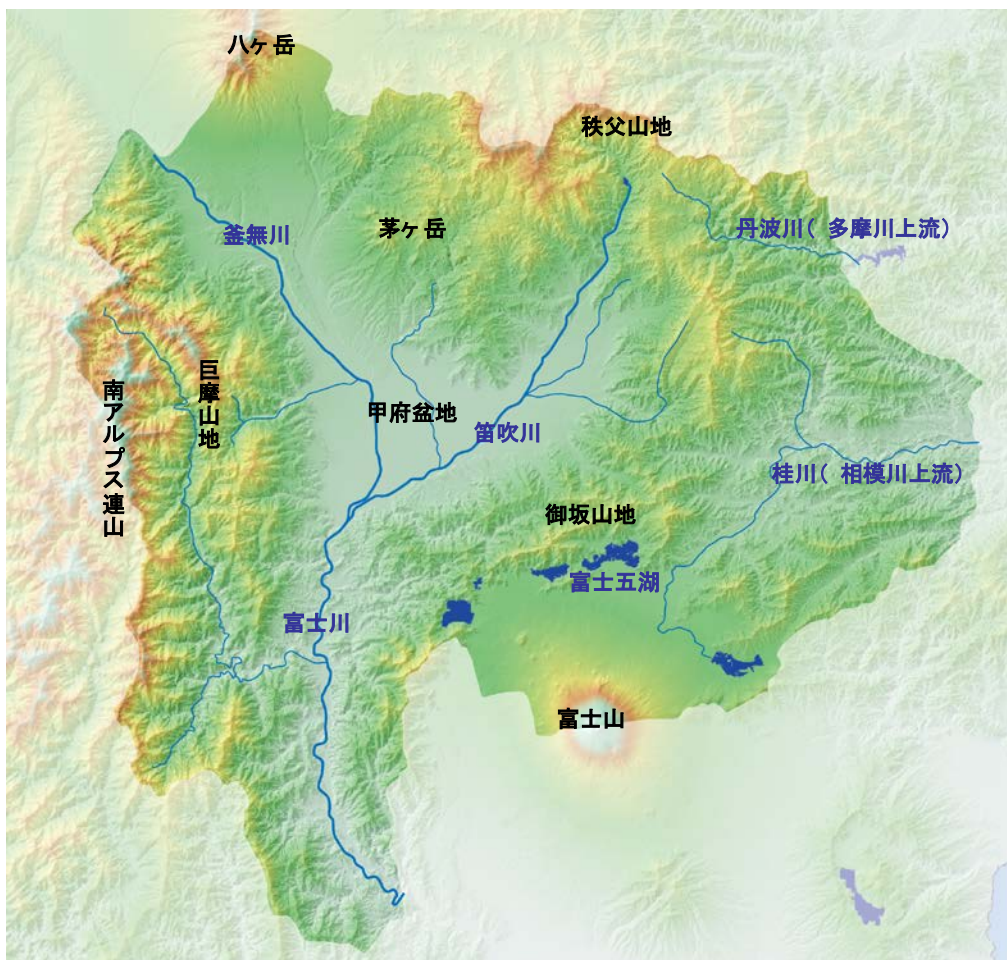


図 山梨県の地形と河川

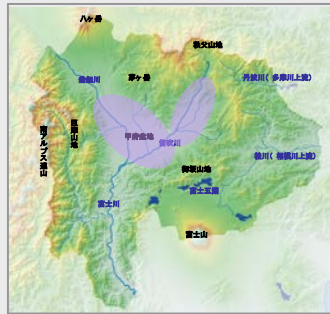
2. 「山梨の大観」の典型例

山梨県の地形が構成する景観の中でも、山梨の県土の広範囲を一望のもとに捉えることができるなど、県土の特性を示す景観を「山梨の大観」と称しています。

典型的な「山梨の大観」を紹介します。

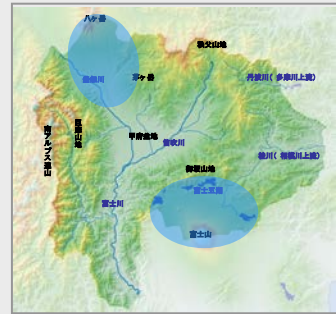
1 甲府盆地における大観

- 甲府盆地を囲む丘陵、山地から、眼下に甲府盆地に広がる果樹地や市街地、遠方に盆地を囲む山並みを望む雄大な眺望※²景観です。



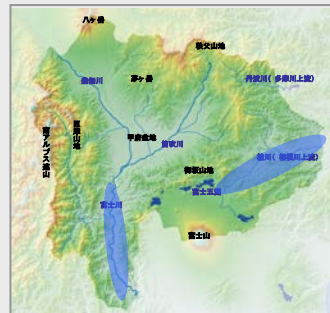
2 富士北麓、八ヶ岳山麓における大観

- 富士北麓から富士山を望む眺望景観など、山体上部と広がる裾野を一体的に眺めることができる雄大な眺望景観です。



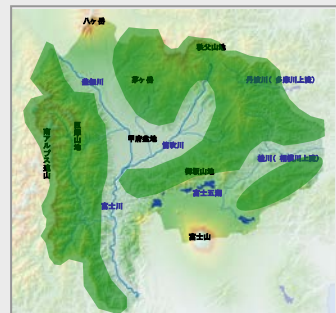
3 河川沿川における大観

- 富士川や桂川等の河川により形成されたV字状の谷や河岸段丘、と河川兩岸に山地が迫る峡谷の景観です。



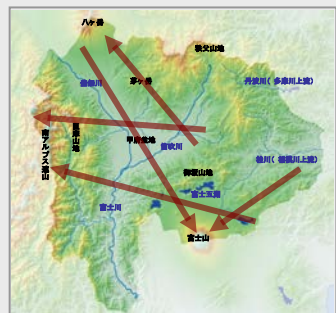
4 山地・溪谷エリアにおける大観

- 急峻な地形の山地が続き、沢、河川上流部が流れ、山間の限られた土地に、集落、農地が展開する山地・溪谷景観です。



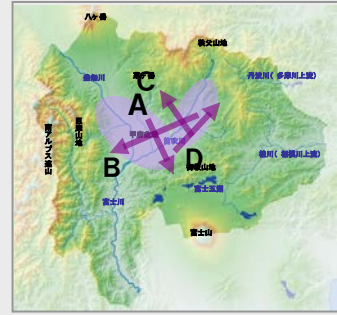
5 1 ~ 4 を越えて県土を縦横断的に望む大観

- 八ヶ岳南麓から富士山や、勝沼周辺から南アルプス連山への眺めなど、甲府盆地を越えて県土を南北、東西方向に一望できる眺望景観です。



1 甲府盆地における大観

- 甲府盆地を囲む丘陵、山地から、眼下に甲府盆地に広がる果樹地や市街地、遠方に盆地を囲む山並み（巨摩山地、御坂山地、甲府北部火山地等）を望む雄大な眺望景観です。



- A. 山宮ハイタウン（甲府市）から、南（御坂山地、富士山方面）への大観。
眼下の甲府市街が広がり、盆地を跨ぎその奥に御坂山地、さらにその背後に富士山を望むことができます。



- B. 甲州市内フルーツラインから、西（南アルプス方面）への大観。
眼下の斜面地にブドウ棚が広がり、盆地を囲む山並みが左右からのび、西方奥（写真正面奥）に巨摩山地、さらにその背後にアルプスを望むことができます。



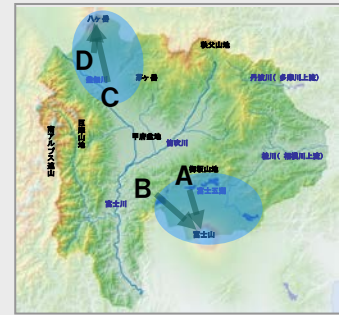
- C. 笛吹市から、北（甲府北部火山地、八ヶ岳方面）への大観。
甲府市中心部の市街地の背後の片山や要害山などの山地（写真中央奥から右に展開）、その奥に茅ヶ岳、さらに遠方（写真左奥）に八ヶ岳を望むことができます。



- D. 笛吹市（釈迦堂 PA 周辺）から、東（関東山地方面）への大観。
盆地底部の甲府市中心部の市街地と盆地を囲む山並みを望むことができます。

2 富士北麓、八ヶ岳山麓における大観

- 富士北麓から富士山を望む眺望景観など、山体上部と広がる裾野を一体的に眺めることができる雄大な眺望景観です。



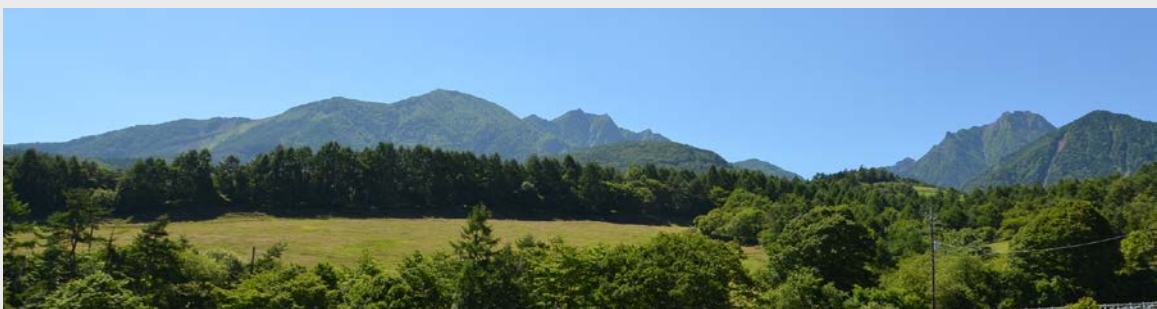
A. 北麓端部（紅葉台）から富士山への大観。
広大な樹海が裾野に展開し、その奥に雄大に聳える富士山を単独で望むことができます。



B. 富士五湖（本栖湖畔）から富士山への大観。
手前に本栖湖が広がり、奥に雄大に聳える富士山を望むことができます。



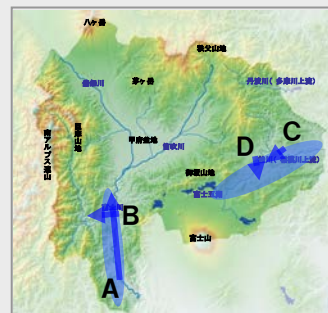
C. 八ヶ岳南麓（金生遺跡）から八ヶ岳連峰への大観。
長い年月をかけて開拓された農地、集落の奥に八ヶ岳連峰を望むことができます。



D. 八ヶ岳南麓（県営八ヶ岳牧場）から八ヶ岳連峰への大観。（上記C. より標高が高い位置からの眺望）
高原に広がる牧場の奥に八ヶ岳連峰を望むことができます。

3 河川沿川における大観

- 富士川や桂川等の河川により形成されたV字状の谷や河岸段丘、と河川兩岸に山地が迫る峡谷の景観です。



A. 富士川が流れ、兩岸に山並みが迫る、河川流路方向の大観（身延町）。
河川沿いの限られた平地に市街地、集落が展開し、すぐ背後に山並みが迫ります。その奥に、信仰の山身延山や富士山を望めます。



B. 河岸の集落と背後の山並みで構成される、河川流路と垂直方向の大観（身延町）。
河川と垂直方向には、河岸に山並みが迫り、その背後に奥山（写真では富士見山）が連なる景観を望むことができます。



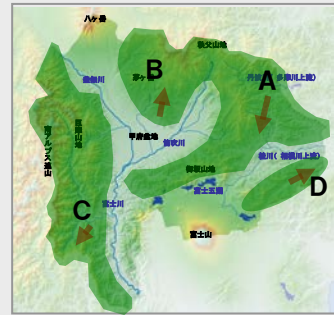
C. 桂川により形成された河岸段丘上に市街地が展開し、背後に山並みが迫る河川沿川の大観。（大月市）
桂川沿いに河岸段丘^{※3}が伸び、背後に急峻な山並みが迫ります。河川流路方向に視界が開け、上流方向には富士山を望める場所も存在します。



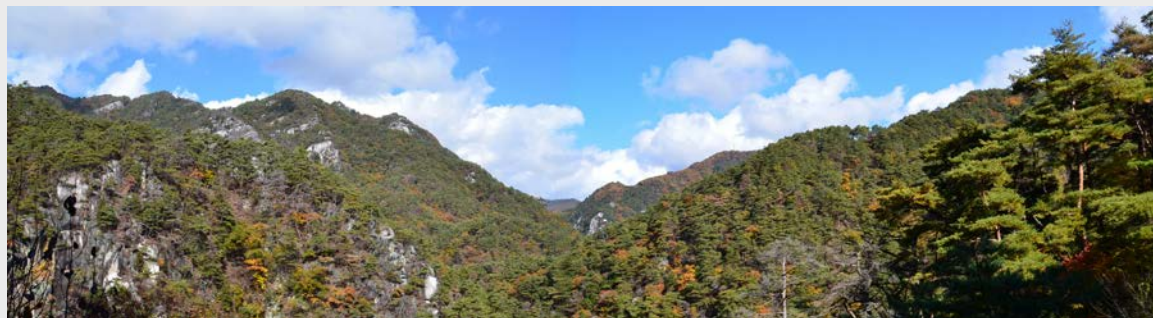
D. 河岸段丘面の市街地と背後の山並みで構成される、河川流路と垂直方向の大観（大月市）
桂川が形成した河岸段丘上に市街地が展開し、周囲の山々が迫る溪谷の景観です。桂川を囲む山並みの背後にさらに幾重にも山並みが広がります。

4 山地・溪谷エリアにおける大観

- 急峻な地形の山地が続き、沢、河川上流部が流れ、山間の限られた土地に、集落、農地が展開する山地・溪谷景観です。



A. 関東山地、御坂山地等に属する諸山地が織り成す大観。(大月市松姫峠周辺)
山地上部から、眼下に山並みが幾重にも続く、山地景観を望むことができます。



B. 山間の溪谷の大観。(甲府市昇仙峡周辺)
山間には河川により深い谷が形成されており、ダイナミックな溪谷景観を望むことができます。



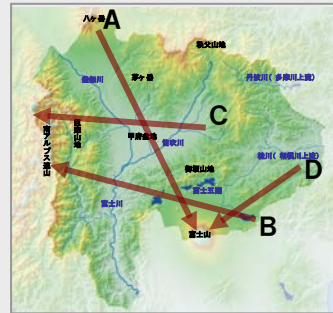
C. 山間の限られた土地に立地する集落と急峻な山地の大観。(早川町赤沢)
山間の僅かな土地に形成された集落と農地の背景に迫る急峻な山地景観を望むことができます。



D. 山間に見られる溪谷河川の大観。(道志村道の駅どうし)
周囲に聳える山々とともに、深く刻まれた谷を河川が流れる、源流の地の景観を望むことができます。

5 1 ~ 4 を越えて県土を縦横断的に望む大観

- ハケ岳南麓から富士山や、勝沼周辺から南アルプス連山への眺めなど、甲府盆地を越えて県土を南北、東西方向に一望できる眺望景観です。



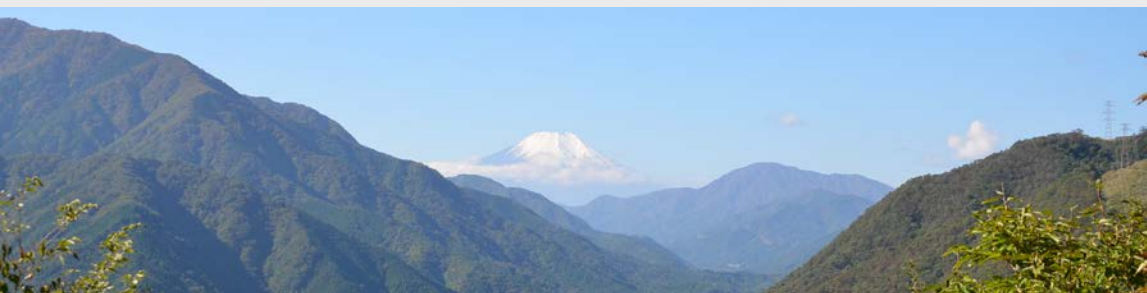
A. ハケ岳南麓（県営ハケ岳牧場）から甲府盆地西部、その奥に御坂山地を挟み富士山を望む大観。山梨県の北（ハケ岳南麓）から南（富士山）まで一望することができます。また、画面右方面には南アルプス、左方向には茅ヶ岳等を望むことができます。



B. 富士北麓（山中湖村パノラマ台）から、山中湖、富士山越しに南アルプス連山を望む大観。富士北麓から、富士五湖（山中湖）、富士山越しに、南アルプス連山を望むことができます。



C. 峡東盆地東部（甲州市）から、甲府盆地越しに巨摩山地、南アルプス連山を望む大観。盆地を囲む丘陵地から、眼下に甲府盆地が広がり、前面に巨摩山地その奥に南アルプスを望むことができます。



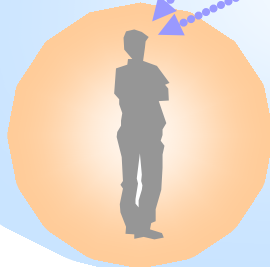
D. 道志山地（道志村厳道峠）から、道志山地、丹沢山地等の山並み越しに富士山を望む大観。道志山地や丹沢山地の山頂や峠付近から、山並みの奥の遠方に富士山を望むことができます。

3. 「山梨の大観」を捉える意義

■県民・来訪者の山梨の県土に関する認識を深める契機となる

◆ 「山梨の大観」は、山梨の県土と県民・来訪者をつなぎます。

- かつて人々は土地の環境に添って日々暮らしていました。土地と住民は密接につながっていたのです。
- 現代においては、科学技術の発達、習慣の変化等により、土地と住民との関係が残念ながら希薄になりつつあります。このことは、美しい県土づくりにとって好ましい状態ではありません。美しい県土づくりの推進のためには、まず、土地の環境に県民、来訪者が心を寄せることが重要です。
- 景観を意識することは、観た者が、その土地の環境に心を寄せるきっかけとなります。つまり、「山梨の大観」を意識することは、「山梨の大観」が、県民のみなさんや来訪者と山梨の県土をつないでいるということです。



- 大観を眺め、意識することにより（点線矢印）、自分の周辺環境（オレンジ色）だけでなく、広く県土（薄水色）を意識する（つながる）機会が生まれます。
- 特に来訪者の方々には、山梨県をよく知っていただく良い機会になります。

◆ 「山梨の大観」をまちづくりに取り込むことは、山梨県らしい景観の形成につながります。

- 「山梨の大観」は、県内各所からの眺めの背景（遠景）になっている場合が多くあります。
- そこで、特定の場において、「山梨の大観」を活用することで、山梨ならではの景観形成が可能となります。



- 「山梨の大観」を活かしたまちづくりは、山梨らしい、その土地ならではの景観形成につながります。



山梨ならではの、その土地ならではの景観形成

◆ 「山梨の大観」を保全、活用することは、広域的景観形成の取り組みにつながります。

- 「山梨の大観」は眺めの対象となる地域が市町村を跨ぎ、広域に広がります。
- そこで、「山梨の大観」を認識し、その景観の保全、活用を広域的に取り組むことにより、「山梨の大観」を介した共同体が形成され、一体感が醸成されます。
- さらに、広域的な連携によって、その地域での観光客の回遊性の向上を目指すなど、地域の活性化に向けた取り組みへの展開が期待されます。



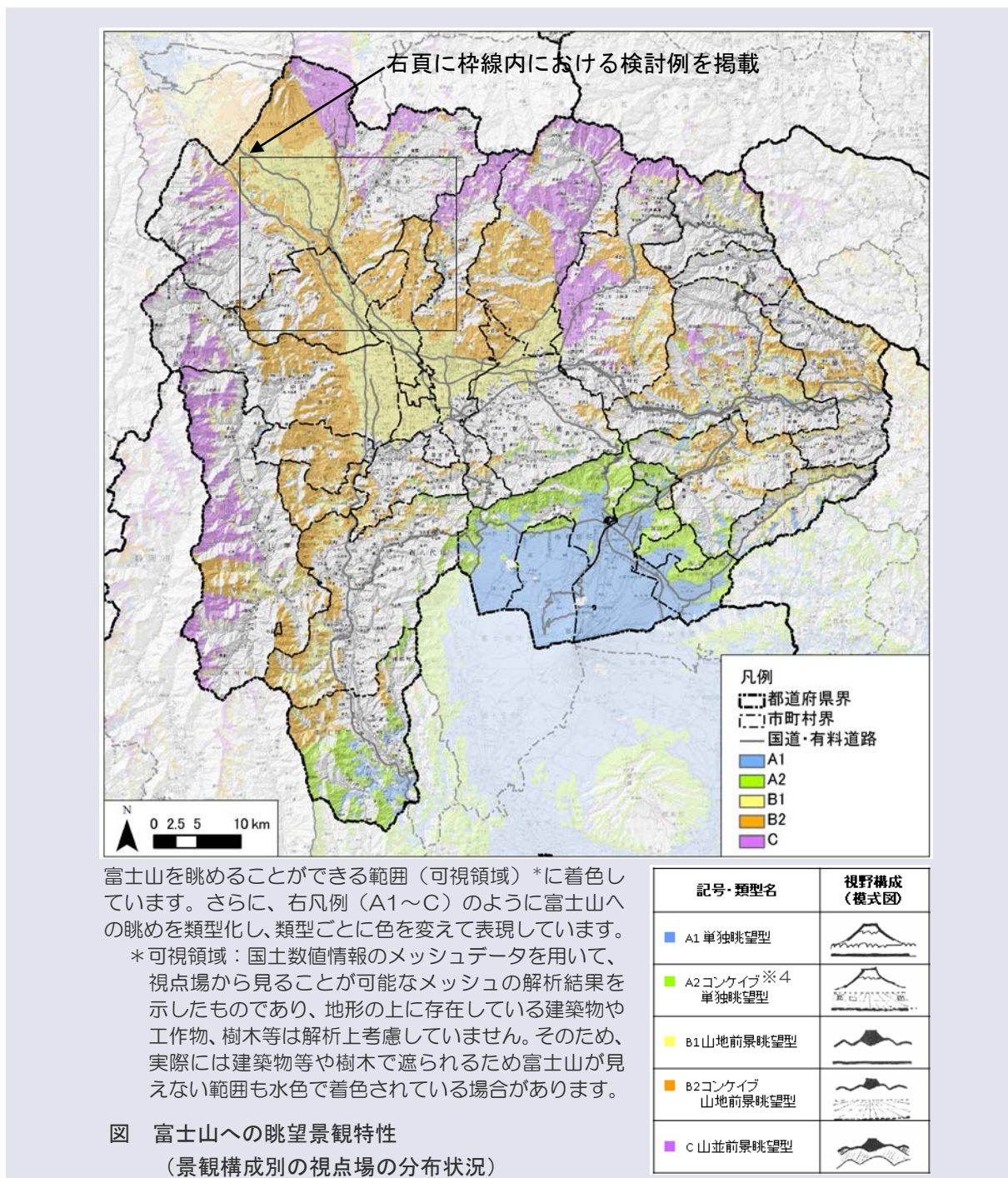
- 「山梨の大観」は、複数市町村を跨って広がります（写真の場合、笛吹市、甲州市、山梨市）。
- 広域的景観形成を通じて、観光振興等、広域的な取り組みの展開が期待されます。

4. 「山梨の大観」を活かした美しい県土づくりのあり方

(1) 「山梨の大観」を望む視点場の設定の考え方 ～山梨の歴史・文化を物語る場～

■ 「山梨の大観」を得られる視点場は県内各地に分布する

- ・「山梨の大観」が得られる場所は、県内広範囲に分布します。
- ・例えば、富士山への眺めが得られる場所は下図の通りです（着色範囲）。富士山を単独で眺めることができる場所や山並み越しに見える場所など、県内各地から富士山を眺めることができます。



■多数の視点場の中から、山梨県の歴史・文化を物語る特定の場所を選定することで、多くの県民・来訪者が山梨県、地域に関する理解を深める機会を提供する

- ・左頁の図のような、県内各地に存在する視点場の内、山梨県の歴史・文化を物語る場（遺跡や自然・産業資源等）から、「山梨の大観」を眺めることは、山梨県、地域への理解をより深める機会を得ることになります。

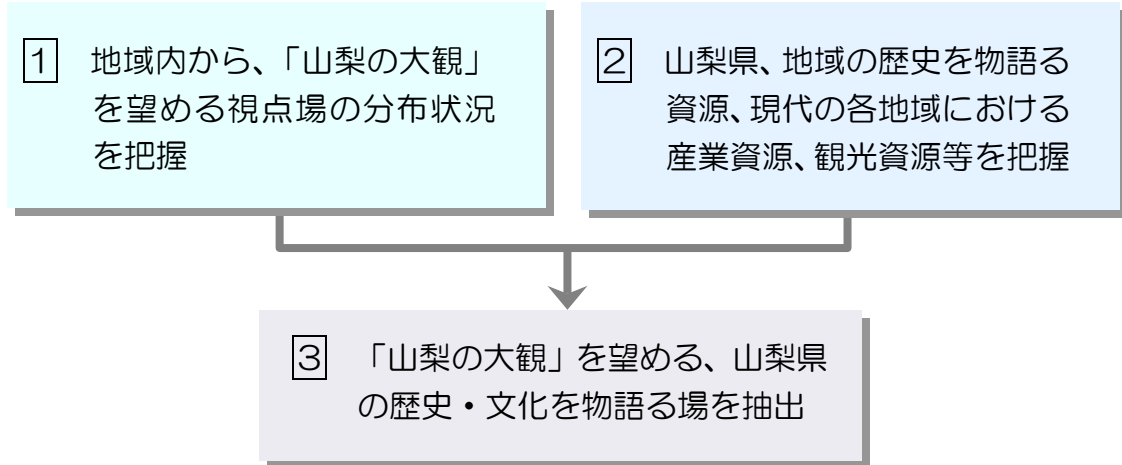
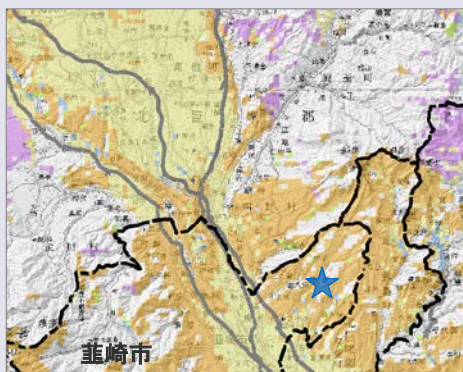


図 「山梨の大観」を望める、山梨県の歴史・文化を物語る場の抽出手順

一 「山梨の大観」を望める視点場から、山梨県の歴史・文化を物語る場の抽出例 一

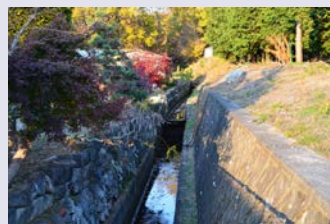
- 1 山梨の大観を望める視点場の分布状況例) 韮崎市北西部から富士山への眺め (左図の枠線内を拡大表示)



韮崎市北西部の金峰山の西麓からは、コンケイブ状の地形が眼下に広がり、御坂山地等の背後に富士山を望めます。(上図橙色部分)

- 2 3 山梨県の歴史・文化を物語る場

- ～韮崎市での例：堰の開削、開拓で発展した山麓高原地～
- ・金峰山山系の西麓、韮崎市に、縄文時代以降の遺跡として飯米場遺跡が存在します(左図★)。
- ・集落跡が確認され、遺跡範囲は穂坂小学校を中心に倭文神社境内などを含み、現在も歴史的な環境が形成されています。また、同地には、江戸時代に朝穂堰(用水路)[写真 a]が築かれ、朝穂堰水配役人詰所[写真 b]が配置されるなど、地域の重要な地区として発展しました。
- ・山梨県内の山麓地の開発史を想いつつ、富士山への大観[写真 c]が得られる場所の一つです。



a. 朝穂堰



b. 朝穂堰水配役人詰所と倭文神社

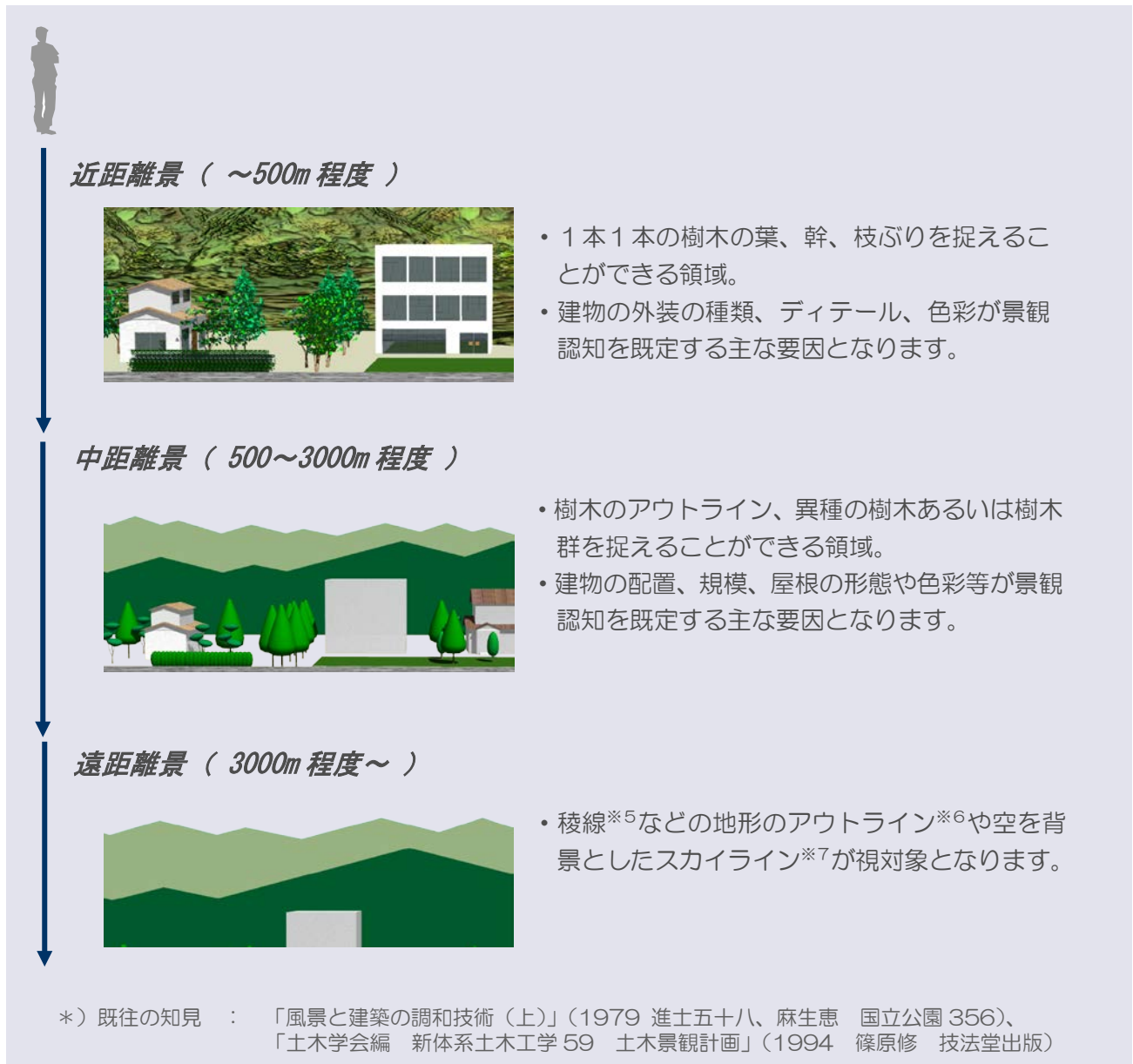


c. 飯米場遺跡内の穂坂小学校校庭から御坂山地、富士山への大観


(2)「山梨の大観」の保全、活用の考え方

■視点場（観る人）と視対象（観る内容）の距離に応じた、対象物の見え方の違い

- ・「山梨の大観」を保全、活用する場合、視点場（観る人）と視対象（観る内容）との関係（距離）に着目することが重要です。
- ・既往の知見*によれば、距離に応じて下図のように対象物の見え方が異なります。




近距離景（～500m 程度）




- ・ 1本1本の樹木の葉、幹、枝ぶりを捉えることができる領域。
- ・ 建物の外装の種類、ディテール、色彩が景観認知を既定する主要要因となります。

中距離景（500～3000m 程度）



- ・ 樹木のアウトライン、異種の樹木あるいは樹木群を捉えることができる領域。
- ・ 建物の配置、規模、屋根の形態や色彩等が景観認知を既定する主要要因となります。

遠距離景（3000m 程度～）



- ・ 稜線^{*5}などの地形のアウトライン^{*6}や空を背景としたスカイライン^{*7}が視対象となります。

*）既往の知見： 「風景と建築の調和技術（上）」（1979 進士五十八、麻生恵 国立公園 356）、
「土木学会編 新体系土木工学 59 土木景観計画」（1994 篠原修 技法堂出版）

図 視点場から視対象への距離に応じた見え方の違い

■視点場からの距離程度に応じた景観配慮の考え方

- ・「山梨の大観」内において建築物、公共施設、農地等の整備を行う際は、特定の視点場（P13 参照）と当該行為の場所との距離程度に応じて、景観配慮の内容を検討することが重要です。
- ・例えば、「山梨の大観」の典型例の一つである「甲府盆地における大観」における、フルーツライン（甲州市）から見た「山梨の大観」の保全、活用の考え方を次頁に示します。

【遠距離景 [3,000m 程度～] における配慮事項】

- ◆南アルプス等奥山への眺めの前景となる山並みの山麓地、稜線部における大規模開発への配慮（山体の自然景観との調和）

【大観の主対象】

- ◆南アルプス連山への眺望の確保

【中距離景 [500m～3,000m 程度] における配慮事項】

- ◆建築物、工作物の周辺田園景観との調和（色彩、高さ・規模、位置）
- ◆地域をとり囲む台地・丘陵地、山麓部における大規模開発への配慮（山体の自然景観との調和）



【近距離景 [～500m 程度] における配慮事項】

- ◆建築物、工作物と背後に展開する山並み等との調和。（形態や色彩等意匠、高さ、規模等）
- ◆農地、文化財等、地域の歴史・文化的な景観の保全
- ◆グリーンツーリズム等、農に関わる観光振興に資する景観形成

【視点場における風景づくりのあり方】

- ◆「大観」を活用するための視点場の創出
- ◆視点場における『身体座』^{※8}の整備（P16、17 参照）
- ◆眺望の確保（樹木の管理等）
- ◆サイン整備（眺望内容、周辺資源等の解説、不要なサイン類の整理、除却）
- ◆視点場の清掃等維持管理

図 「山梨の大観」の保全、活用の考え方例（「甲府盆地における大観」について）

(3)「山梨の大観」を望む空間(「身体座」※8)の設え方

■「身体座」とは

- P12、13で解説しました、山梨県の歴史・文化を物語る特定の視点場のうち、以下のように特別に整備した空間を本書では「身体座(しんたいざ)」と呼びます。

【身体座】

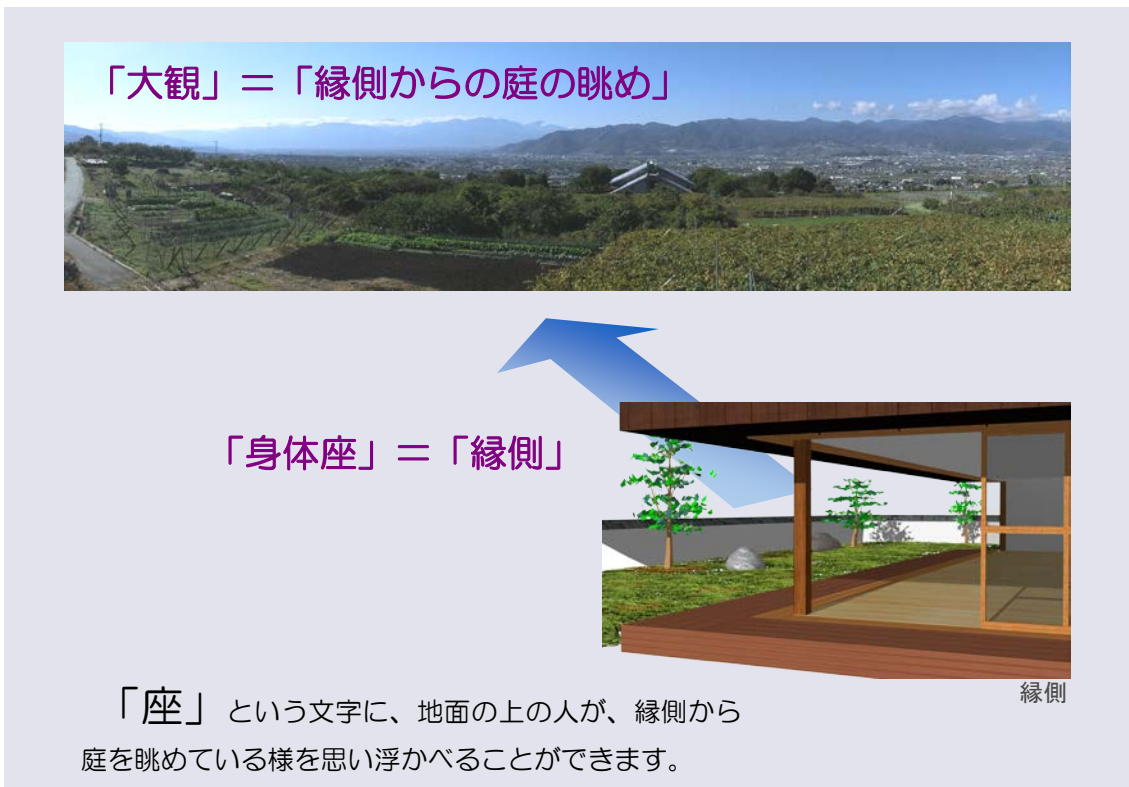
「身体座」とは、居心地が良く見はらしに恵まれた人間の居場所、「寄る辺」です。

「寄る辺」は単なる空間だけでなく、その場で飲食も可能な空間です。

具体的には、以下のような空間です。

- ◆ベンチなどに座ることができ、東屋や木陰など、日差し等を遮るものがある空間
- ◆宿泊・レクリエーション等観光施設のロビーや庭園、レストランの客席等店舗空間 等

例えば、下図のように、「身体座」は座敷に接する縁側であり、「大観」は縁側からの庭の眺めです。



納涼床から賀茂川、京都の街なみへの眺め
写真撮影：山田圭二郎



円通寺御幸御殿から比叡山方向への眺め
写真撮影：山田圭二郎

■魅力的な「身体座」の創出による地域振興

- 「山梨の大観」を望むことができ、かつ、山梨県の歴史・文化を物語る視点場は、ゆったりと座ることができ、観る人々の体を心地よく包み込む空間とすることが望めます。
- また、「身体座」は施設内の空間だけでなく、下に示す写真のように、縁側や建物のテラスも魅力的な「身体座」にすることが可能です。
- 魅力的な「身体座」の創出は、「施設内からの景観づくり」といえます。「山梨の大観」を積極的に活用することは、施設の魅力を増進し、来訪者に山梨県の魅力を伝えるとともに、地域の活性化にも寄与します。

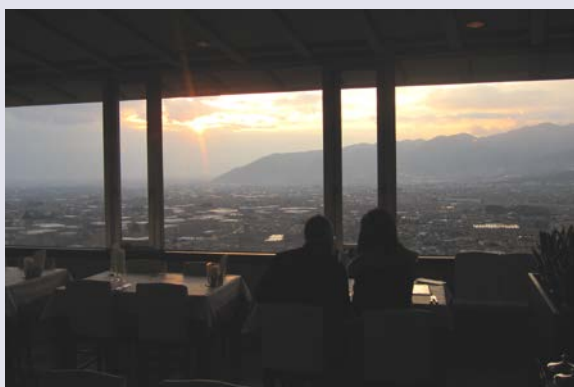
【「身体座」創出事例（山梨県内）】



ブドウ園内のレストラン（2F）から、眼下のブドウ園と、背後の峡東盆地を囲む山並みへの眺めを楽しめる（甲州市）



歴史的建造物の縁側から、日本庭園越しの富士山方面への眺めを楽しめる（山梨市）



レストランから、眼下に峡東盆地、背後のに盆地を囲む山々、南アルプスの山並みへの眺めを楽しめる（甲州市） 写真提供：甲州市



カフェの屋外テラスから、河口湖越しの富士山への眺めを楽しめる（富士河口湖町）

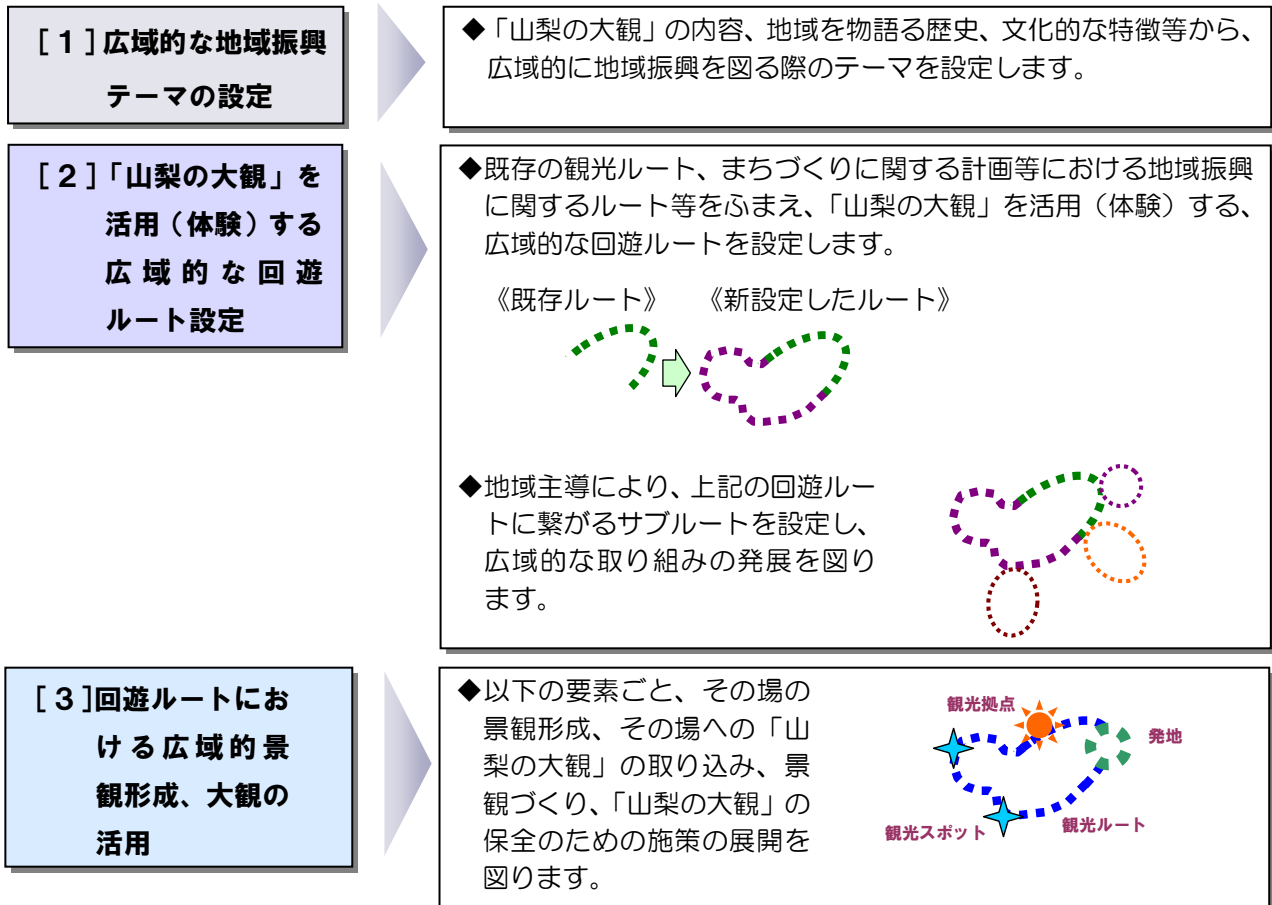
(4)「山梨の大観」への眺望を活かした広域的に取組む地域振興方策例

■広域的に取組む地域振興方策の目的

- ・「山梨の大観」の保全、活用を主テーマに、広域的景観形成の取組みを促進するため、「山梨の大観」を体験できるルートを設定し、同ルート上に、地域産物を楽しめるレストランや直売所等を位置づけることにより、地域の産業振興につながります。

■広域的に取組む地域振興方策の枠組

- ・方策の枠組は下図の通りです。



■推進方策

- 〈1〉 広域的景観形成の実施体制の整備
 - ・「山梨県景観行政団体連絡会議 ○○地域部会」等を活用するとともに、特定テーマごとに地域の関連団体等が参画する下部組織を設置する。
- 〈2〉 広域的景観形成の実施の取組み
 - 複数の市町村に跨る景観について特定の項目の景観形成基準の統一化 (例えば、果樹地の擁壁のデザイン、素材等)
 - 広報、情報提供
 - 公共施設、公共空間、民間施設(店舗、宿泊施設等)における展望空間の創出、身体座の整備

■プロジェクト展開イメージ

[1] 広域的な地域振興テーマの設定

－ 甲斐のあけほのの地 峡東 －

甲斐の歴史を学ぶとともに、ブドウ棚やワイナリー、モモ等の果樹地の文化的な景観、南アルプス、富士山、ハケ岳等への大観、そしてフルーツ等の地場の特産物を楽しむ

[2] 「山梨の大観」を活用（体験）する広域的な回遊ルート設定

- ◆ フルーツラインを活かし、大観を望めるポイントを結ぶようにメインルートを設定。
- ◆ 上記をメインルートとし、そこにつながるサブルートを各地域主導で設定。
〔歴史的資源やブドウ・モモ農園、ワイン製造に関する近代化産業遺産等を各地で結ぶルート。〕

■発地（交通拠点）： 鉄道駅、高速 I.C.

《施設、設備》

・大観、地域の特徴的な景観と調和する駅舎、インターチェンジ施設の整備

《案内サイン等情報提供設備》

・デザイン、色彩、素材、大きさ等が統一された案内サイン
・情報提供機能の充実化（情報提供コーナーの設置等）

《展望空間》

・大観を眺める展望空間の創出、視点座の整備（駅：階段踊り場、跨線部、待合室、駅前広場 等）



当該地区の資源や大観、ルート等の情報提供コーナーの整備
デザイン等が統一された案内サインの掲出



地場産品を販売する直売所



大観を取り込む、眺望空間の創出、眺望方向の緑の管理



官民連携による沿道での花の植栽の取り組み



■観光拠点： ぶどうの丘、フルーツ公園 等

《施設、設備》

・大観、地域の特徴的な景観と調和する施設整備
・ツアープログラムの起終点機能強化、情報提供機能の充実化

《展望空間》

・大観を取り込む、眺望空間（テラス等）の創出、視点座の整備
・販売している商品の産出農園への眺めの確保、同農園の紹介



微地形、ブドウ棚等の保全と周辺の景観と調和する観光拠点施設



背景となる山並みの生物多様性の保全や豊かな景観形成のための森林づくり



大観を取り込む、眺望空間の創出（レストラン屋外テラス）



大観を取り込む、眺望空間の創出（レストラン）

■観光ルート： 高速道路、一般道、（鉄道沿線）

《ルート設定》

・峡東盆地一周ルートの設定

《道路整備、附属物》

・道路景観の改善
・大観に配慮した防護柵等安全設備、照明等附属物配慮

《屋外広告物》

・デザイン、色彩、素材、大きさ等が統一された案内サイン
・沿道屋外広告物配慮（景観保全型広告規制地区の指定等）

《植栽、沿道の緑》

・大観に配慮した植栽
・官民連携による沿道植栽、維持管理

《ルート周辺農地》

・農地、農園の適正な管理、石垣の保全

《ルート上の展望空間》

・大観を取り込む、眺望空間の創出（道路休憩施設等）

《その他》

・周辺空き家対策

■観光スポット： 果樹園、歴史的・文化的資源、レストラン等

《施設、設備》

・大観と調和する建築物等の形態・意匠、位置、高さ、素材（農業土木）等

《展望空間》

・大観を取り込む、眺望空間（テラス等）の創出、身体座の整備

《植栽、沿道の緑》

・大観に配慮した植栽、官民連携による沿道植栽、維持管理

《農地、地場産業と観光との連携》

・農地、農園の適正な管理、石垣の保全
・グリーンツーリズム等、農に関わる観光振興に資する景観形成

《資源の保全》

・歴史的・文化的資源の保全

《屋外広告物、案内サイン》

・デザイン、色彩、素材、大きさ等が統一された案内サイン
・当該地区における歴史的・文化的資源の位置づけ等の解説